

# 街歩きヒストリア



碇太鼓、大綱引きなどの伝統行事も継承されています。

## 碇神社

いかり

白島九軒町

昔の白島は、海に囲まれた中の小さな島。箱島と呼ばれていました。大きな岩盤があったために船の遭難が相次ぎ、奈良時代頃からここには筥島(はこしま)明神が祀られていたそうです。

広島城築城の折、改めて社殿を造営。社名は、往来の船がこの島に船をつけるために碇(いかり)を下ろして停泊したことに由来すると伝えられています。

以来永く白島の氏神様として住民たちの尊崇(そんすう)を集めてきましたが、原爆投下で社殿は全焼。仮社殿を経て昭和40年に再建されています。境内には碇石(いかりいし)の跡や被爆樹木のソメイヨシノやタブノキもあり、地域の歴史を物語っています。

(文・片山典子さん)

③0

中央公民館エリア(白島、基町、幟町)の街の魅力を歴史とともに紹介するコラム「街歩きヒストリア」。公募で集まった制作スタッフが編集します。



碇石跡の写真

